

Letter from Tsuruno Meguro to Fumio Fred and Yoneko Takano, [May 1945]

二三男・米子様

御手紙有難う御座いました。皆さまには御変りもなく御暮らしの中何よりのことと喜び居ります。ハートマウンテンも暖かになりましたけれど二三日寒くてストーブへ火をたきました。当地は六月にならなければ毎日よい天気になりません。いつかあなた達もシカゴへいきますとか。私達もローサンゼルスへ行くようになりました。ベンさんかえって来て十六日のスペシャルのトレインに乗る考えで居りましたの。そうしたところ島津さんの家かすからいきなさいといわれまして急に行くようになりました。フライデーの午前九時半でここ立つようになりました。よし子みさ子もつれていきたいと思いましたが、みさ子は夜学へ行って居りますからすんでから行くといいますから、よし子とみさ子あとからくるようになりました。荷造りでなかなか忙がわしいですよ。あんた達も兵たいの心配なくなりましたならきなさいよ。1日も早く会うことの出来ますようにお待ちして居ります。良一、足悪くて病院に居ります。今度のイタリーの戦争へ出ませんから心配ありません。早く平和になりませんと若い人達ほんとうにかわいそうですね。またローサンゼルスへ着きましてから御手紙上ます。パパママによろしく。御からだ大切になさいよ。さようなら

まま

二三男様
米子様

島津さん達二年位かいらなそうです。